

令和5年度 各地区労働衛生管理推進大会

那覇地区

那覇支部は、9月7日(木)に沖縄産業支援センター(大ホール)にて令和5年度労働衛生管理推進大会を開催し、63事業所102名が参加しました。

参加者全員で黙祷を捧げたあと、開会あいさつをした仲西那覇支部長からは、昨年の県内における有所見率が12年連続で全国最下位となったことにふれ、『健康経営』の考えのもと、企業が積極的に労働者の健康管理に取り組むことが益々重要となっています」と呼びかけました。



安慶名秀樹那覇労働基準監督署長からは、「労働者の健康をめぐる状況は、高齢化の進行もあり、全国的に一般健康診断の有所見率が上昇を続けています。少子高齢化が進み、多くの企業で人手不足が顕在化してきており、「健康は個人の問題」で片づける時期は過ぎつつあると感じております。今後、益々、「労働者の健康」は企業の資産となり、生産性向上のキーとなります。組織として労働者の健康づくりをバックアップしていくためにも、「うちなー健康経営宣言」に登録いただき、健康保持増進に取り組む企業であることをPRしていただきたい」旨の来賓あいさつがありました。

次いで、児玉那覇監督署安全衛生課長からは、衛生週間に係る実施事項、定期健康診断実施結果の状況と「うちなー健康経営宣言」についての説明がありました。



特別講演では、(株)明治 西日本支社の平山愛友氏より「朝食改革でパフォーマンスアップ」と題してオンラインによる講話が行われました。「朝食の役割」と「たんぱく質」は五大栄養素の働きである「エネルギー源」「体づくり」「体調を整える」すべての役割を持っているが、朝食では少なくなりがちであり、タンパク質をアップする組み合わせ方等の説明がありました。また、スマホを活用して参加者の朝食バランスチェックや、たんぱく質の摂取状況の即時集計も行われました。

また、建災防沖縄県支部浦添・西原分会の安全指導員を中心に参加者全員で労働衛生週間スローガンに向かい指差唱和が行われ、健康職場への決意を新たにしました。最後に、沖縄産業保健総合支援センターの玉那覇副所長より大会宣言が読み上げられ、誰もが快適で健康に働くことができる職場づくりを目指して、「こころ」と「からだ」の両面から対策を進めることを誓い労働衛生意識を高めました。



中部地区

9月6日(水)、沖縄市産業交流センターにて令和5年度中部地区労働衛生管理推進大会を開催し、59事業所104名が参加しました。

参加者全員で黙とうを捧げたあと、共催者を代表して金城中部支部長のあいさつで開会し、本大会を機に職場の労働衛生活動の総点検を行い、一層の促進に努められるよう呼びかけました。



比嘉信和沖縄労働基準監督署長からは、「沖縄監督署管内における令和4年休業4日以上の死傷災害はコロナによるのを除くと1昨年を上回り過去最多となった一方死亡者数についてはゼロとなりました。今年は7月末速報値で昨年同時期を上回っており、そのうち4人の尊い命が失われてしまったことは誠に残念である。過去15年間において年上半期にこれだけ死傷者が多い年はなく、由々しき事態となっており、今一度労働災害防止の徹底を切にお願い申し上げます。定期健康診断結果における有所見率が全国の中で最も高い沖縄県平均よりも、沖縄監督署管内の有所見率は高く、健康改善が大きな課題となっている。食生活の改善、適度な運動など具体的な取組みとともに、『うちなー健康経営宣言』への参加・登録をお願いします。生活するために欠かせない『働く』ということにおいて、働く方が危険や健康を脅かされることはあってはならず、各職場での一層の労働災害防止と労働者の健康の確保に対する取組みにつきまして重ねてお願い申し上げます。」旨の来賓あいさつがありました。



佐喜真沖縄監督署安全衛生課長からは、準備期間中に実施すべき事項の説明があり、9月は職場の健康診断実施強化月間であり、沖縄監督署管内の定期健康診断結果状況を説明し、事後措置の徹底が必要であること。また、法改正関連として、解体等工事に石綿が含まれているか事前調査は有資格者が行う必要となる事や新たな化学物質規制についての説明が行われました。

特別講演では、沖縄ヤクルト(株)ES推進室の前原愛氏により「ストレスとうまく付き合う腸活術」と題して講話が行われました。最近の研究では、うつ病患者の腸内には良い菌の代表でもある乳酸菌等が少なく便秘や下痢が多い。ストレスは、腸内フロー